

# 東金市都市計画審議会会議録

日 時 令和2年1月27日（月） 午前10時00分から午前11時40分まで

場 所 東金市役所 第1委員会室（3階）

出席者

【委員】 倉林 眞砂斗会長 （城西国際大学観光学部教授）  
大沢 昌玄委員 （日本大学理工学部教授）  
小川 秀二委員 （東金商工会議所会頭）  
日色 真帆委員 （東洋大学理工学部教授）  
増田 祐子委員 （建築士 千葉工業大学・日本大学非常勤講師）  
石田 明委員 （東金市議会総務常任委員長）  
相京 邦彦委員 （東金市議会文教厚生常任委員長）  
佐竹 真知子委員 （東金市議会建設経済常任委員長）  
白井 隆雄委員 （千葉県山武地域振興事務所長）  
宮田 昌明委員 （千葉県山武土木事務所長）  
佐久間 健委員 （山武郡市広域行政組合消防長）  
長島 正委員 （公募委員）

（以上12名）

【事務局】 鹿間市長・岡澤都市建設部長

[都市整備課] 馬場課長・山本主幹・有働副主幹兼計画係長・中村副主査

【業務委託コンサル】 (株)協和コンサルタンツ 中村、本田

議 事

(1) 東金市第2次都市計画マスタープラン 「まちづくりの課題と方向性」について

## 1. 開 会

【事務局】 定刻となりましたので、ただいまから東金市都市計画審議会を開催いたします。  
本日、司会を務めさせていただきます都市整備課の馬場と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議資料の確認をさせていただきます。

配布資料でございますが、

- ・東金市都市計画審議会次第
- ・東金市都市計画審議会委員名簿
- ・東金市第2次都市計画マスタープラン 諮問書
- ・東金市都市計画審議会 説明資料
- ・東金市都市計画審議会条例

となります。お手元に配布いたしました資料が不足している方はいらっしゃいますか。  
それでは、次第に従いまして進行させていただきます。

## 2. 会長挨拶

【事務局】 はじめに、倉林会長よりご挨拶をお願いいたします。

【倉林会長】 本日は、ご多忙の中、ご参集いただき誠にありがとうございます。

本日の都市計画審議会は、東金市第2次都市計画マスタープランの策定にあたり、市長より開催の依頼がございましたので、委員の皆様にご参集を願ったところでございます。

都市計画マスタープランは、行政にとっては都市づくりの指針、土地利用に関する根幹の計画として活用され、また、お住みになっている住民の方々にとっては都市づくりの手引きとして活用されることが期待されます。

今回の計画策定にあたっては、令和元年度・2年度の2箇年に渡り、複数回の審議会開催を予定していると事務局からは聞いてございます。委員各位には多大なるご苦勞をおかけすることになりますが、慎重・審議をお願い申し上げます。

この後、議事に移りますが、本日、審議していただきます内容は、「まちづくりの課題と方向性」についてでございます。

これからの議事進行がスムーズに行きますよう、ご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。

### 3. 市長挨拶

【事務局】 続きまして、鹿間東金市長より、ご挨拶をお願いいたします。

【鹿間市長】 本日は、ご多忙中にもかかわらずご参集いただき、厚く御礼を申し上げます。

倉林会長をはじめ委員の皆様には、日頃より市政に対し格別のご理解とご支援を賜っておりますことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

本日の都市計画審議会につきましては、東金市第2次都市計画マスタープランの策定にあたり、令和という新しい時代を力強く邁進していく都市づくりをしていくために、東金市都市計画審議会に対し、都市計画法第77条の2の規定に基づき計画に関する諮問をさせていただきたく会長に開催をお願いしたところでございます。

都市計画マスタープランは、本市の目指すべき都市の将来像を示し、その実現のための施策や取り組みの方向性を明らかにした土地利用に関する根幹の計画であり、言わば、都市づくりを進めるための設計図になるものだと考えております。

この後、ご審議いただく内容でございますが、東金市の現状と課題から見えてきた「まちづくりの方向性」について、でございます。詳しくは事務局から説明させますので、ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

結びとなりますが、本市の将来に向け実りのある計画となりますよう委員の皆様にはご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

【事務局】 次に、定足数についてご報告いたします。

本日の出席委員数は、委員定数17名のうち、12名であり、東金市都市計画審議会条例第5条第2項の規定により、半数以上の出席をいただいております。

続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。

(上記出席者【事務局】のとおり紹介)

また、本計画策定の業務委託を請け負っております、受託者の株式会社 協和コンサルタンツの中村様、本多様にも会議の内容を踏まえ、今後の計画調整に活かしてもらうため、出席を願っておりますので、ご了解の程お願い申し上げます。

### 4. 諮問

#### ○東金市第2次都市計画マスタープランについて

【事務局】 次第の「4. 諮問」に移らせていただきます。本日は、東金市第2次都市計画マスタープランについて、市長より都市計画審議会に対して、諮問をさせていただきます。

【市長】 諮問、東金市第2次都市計画マスタープランについて、別添理由書を添えて貴審議会の意見を求めます。

本市では、これまで東金市都市整備基本計画、東金市都市基本計画及び東金市都市計画マスタープランを策定し、長期的な視点に立った計画的な都市づくりを進めてきました。

平成28年に県では、千葉県東金都市計画区域マスタープランの見直しがされたほか、現在、市の次期総合計画の策定作業が行われています。

このようなことから、国県等の都市計画の方針との整合性や総合計画との調整を図りながら、社会情勢、人口動向・構造の変化、土地利用の現状及び都市施設の整備状況等、本市を取り巻くさまざまな課題や環境の変化を適切に捉え、持続可能な都市を目指し、都市全体の総合的かつ一体的な都市づくりの指針となる計画を、現行東金市都市計画マスタープランの目標年次が終了する令和2年度末（2020年度末）までに改定する必要が生じています。

以上に挙げたような、今後の社会情勢の変化や本市の現状と課題を踏まえ、長期的な視点から都市づくりの将来像を確立し、都市づくりの基本的な方針となる東金市第2次都市計画マスタープランの策定について諮問します。

具体的には、本市の最上位計画である総合計画（基本構想）の策定状況も踏まえ、以下の事項を中心に御審議をお願いします。

- 東金市の現状と課題
- 全体構想
- 地域別構想
- まちづくりの実現化方策

以上が御審議をお願いしたい事項であります。これらに関連する事項を含めて新しい時代の都市づくりの基本的な方針について幅広く御検討いただくようお願いいたします。なお、これらの課題は広範多岐にわたることから、審議の状況に応じ、審議の区切りがついた事項から逐次答申いただくことも御検討いただきますようお願いいたします。

[鹿間市長から倉林会長へ諮問書を手渡し]

- 【事務局】** ありがとうございます。東金市第2次都市計画マスタープランは、令和元年度、2年度の2箇年での計画策定を予定しております。
- なお、本日の審議会の内容は、諮問書の理由欄、現状と課題の部分になります。今後は、完成までに複数回の審議会を経て、都市計画審議会からの最終答申を踏まえ、計画書としてまとめあげていきたいと考えてございます。

## 5. 議事（1）東金市第2次都市計画マスタープラン「まちづくりの課題と方向性」について

- 【事務局】** それでは、「5. 議事」に移らせていただきます。
- 東金市都市計画審議会条例第5条第1項の規定により、会長が会議の議長となりますので、会長であられる倉林会長に進行をお願いいたします。
- 【会長】** 規程に従い、議長を努めさせていただきます。
- 議事に入ります前に、議事録署名人の選任であります。私から指名をさせていただきます。増田委員と長島委員に議事録署名人をお願いいたします。
- 【両委員】** 了解。
- 【会長】** それでは本日の議事でございます（1）東金市第2次都市計画マスタープランまちづくりの課題と方向性について、事務局よりご説明をお願いいたします。
- 【事務局】** 都市整備課の有働と申します。よろしくをお願いいたします。
- ただいま市長から諮問させていただきました、東金市第2次都市計画マスタープランは、今年度から令和2年度までの2箇年にわたり策定するものでございます。

今年度は、3月末までに全体構想の素案策定までを予定しておりますが、本日は、全体構想や各施策の柱などを検討するにあたり、まちづくりの根底として考えていくべきまちづくりの方向性についてご説明をさせていただきます。この方向性を見誤ることは、将来のまちづくり全体に関わることとなりますので、委員の皆様には、その方向性や過不足の有無などについて、より良い方策を練り上げていけるようご審議のほどよろしくお願いいたします。

議事(1) 東金市第2次都市計画マスタープラン まちづくりの課題と方向性についてご説明いたします。スクリーンをご覧ください。

始めに、都市計画マスタープランについて改めてご説明させていただきます。

都市計画マスタープランは、都市計画区域マスタープランと総合計画に即したなかで、具体的な土地利用をどのようにしていくのか ということを示した計画であり、いわば、都市づくりの設計図と言えるものです。都市づくりや地域づくりの道筋を長期的・総合的な視点で示し、行政には都市づくりの視点として、住民の方々には、地域づくりの手引きとして活用されるものです。

都市計画マスタープランの位置付けでございます。

図の中ほど、二重線囲いが東金市都市計画マスタープランとなります。この計画は、市町村の都市計画に関する基本的な方針の通称で、市の都市計画分野の最上位計画と位置付けられており、都市づくりの将来像や都市づくりの基本的な方針を定めることとなります。また、市の上位計画である総合計画と、都市計画分野の上位計画であり千葉県が定める千葉県東金都市計画区域マスタープランに即した計画として策定する必要があります。策定された都市計画マスタープランは、個別の都市計画を定める際の指針として、また、分野別の行政計画と連携しながら、都市づくりの実践に活用されることとなります。

こちらがお手元の資料1ページでございます。ここから先は資料の詳細な説明でございますので、スクリーンによりご説明させていただきます。東金市の現状を把握するために、記載してございます6つの項目を収集・整理いたしました。

上位・関連計画でございます。

上位計画といたしましては、千葉県東金都市計画区域マスタープラン、東金市総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、まち・ひと・しごと創生人口ビジョンがございます。このうち、千葉県東金都市計画区域マスタープランと東金市総合計画が都市計画マスタープランに即さなければならない計画でございます。

関連計画では、農業振興地域整備計画、下水道基本計画などがございまして、相互に連携し合うものでございます。

千葉県東金都市計画区域マスタープランでございます。千葉県が定める都市計画分野の上位計画であり、4つの基本理念に対し、都市づくりの目標を定めています。

次期総合計画は、現在企画課において策定中でございますが、この3つを基本理念としております。

東金市の現況でございます。本市の現況を把握するためにこれらのことを整理いたしました。

人口・世帯数の動向でございます。棒グラフが人口、折れ線グラフが世帯数です。行政人口は、平成22年までは増加していましたが、6万1,751人をピークに減少しています。世帯数は、世帯規模の縮小により、増加の幅を鈍化させながらも微増傾向にあります。

人口集中地区、通称D I Dでございます。赤枠が用途地域、水色が昭和40年のD I D、ピンク色が平成27年のD I Dです。D I D面積は4倍以上に増加し、用途地域

内でも基盤整備を実施したエリアに人口が集中しており、これまでに実施してきた基盤整備の成果が表れています。

主要産業でございます。はじめに、農業でございます。棒グラフが農家数、折れ線グラフが耕地面積です。農家数・耕地面積ともに減少しています。

工業でございます。棒グラフが工業従事者数、折れ線グラフが製造品出荷額です。

凹凸はございますが、工業従事者数・製造品出荷額ともに減少しています。

商業でございます。棒グラフの茶色が事業所数、赤が従業者数、折れ線グラフは年間商品販売額です。年ごとのバラつきはありますが過去10年ではいずれも減少しています。

観光でございます。赤が観光者数、青が宿泊者数です。観光客数は観光全般として減少していたところ、みのりの郷の開業により大きく増加しましたが、みのりの郷だけが増加している状況でございます。

土地利用でございます。

地目別の土地利用面積です。薄い緑色が田、その隣の黄緑色が畑、緑が山林、ピンクが住宅です。農地・林地で市の面積の半分以上を超えており、貴重な産業資源であるといえます。住宅地の割合は増加傾向です。

住宅所有の関係別世帯数です。この20年間で世帯数全体は約1.5倍に増加しており、基盤整備に併せた持家と大学関係の借家が増加しています。

道路・交通でございます。着色されている路線が高規格道路、有料道路、国県道です。

これらの道路連携や災害時緊急輸送路が不足している市域の一部がございます。

JR東金線の1日平均乗客数でございます。上から、東金駅、求名駅、福俵駅です。福俵駅につきましては平成17年以降のデータがございません。東金駅では、人口が増加していた時から減少が続き、利便性の課題がうかがえます。求名駅では大学の開設や増設により増加しています。

東金市内のバス路線を着色してございます。過去10年で1日の運行回数が約6割に減少したことから、市では循環バスやデマンドタクシーを運行し、公共交通の確保に努めています。

市民意見等でございます。

策定過程において、年齢層や地域的隔たりが無いよう、市民アンケートや地区別懇談会などを通じて様々な方の意見を伺っています。都市づくりに関連した、土地利用に関係する主な意見として、交通アクセスが良い、東金インター周辺は産業適地、自然が豊かといった強みや、駅周辺の賑わい、公共交通が不十分、独自の魅力づくりが乏しい、身近な公園の不足といった弱み、Wi-Fi環境の整備、バスターミナルの整備など様々なアイデアもいただきました。

社会情勢の変化でございます。

少子高齢化・人口減少化、社会資本の老朽化、環境・エネルギー問題により、国では持続可能なまちづくりへの対応として、コンパクトシティを推奨しています。また、昨年の台風15号からの一連の台風・大雨のように、激甚化する自然災害、ICT、IoTといった高度情報化の進展など、現行の都市計画マスタープランを策定した平成13年以降の20年間で大きく変化しています。

現行都市計画マスタープランの評価でございます。

まちづくりの目標は、人と自然が育む“賑わい”と“やすらぎ”のステージとうがね。

将来人口は、平成32年（令和2年）で75,000人としています。このような、まちづくりを進めてきましたが、目標設定した人口75,000人に対し、令和元年度で約59,000人と目標値から大きく乖離しました。これは急激な少子高齢化や

地価の下落、住宅需要の変化など自然的・社会的な要因が大きく関連したものと考えておりますが、平成20年度をピークに人口減少に転じた本市の人口推計値などを踏まえ、中間年次となる平成22年時に必要な時点修正をすべきであったものと考えています。

持続可能な都市の構築という点では、本市では、3駅を中心とした比較的まとまりのあるまちづくりを進めており、都市計画マスタープランの方針に基づき実施されてきた土地地区画整理事業をベースに街路、公園、下水道などのインフラ整備が総合的かつ一体的に、また、これらを継続的に行えてきたことが、今日の東金市の発展につながってきたものと評価しております。この結果、外房方面の各自治体が軒並み大幅な人口減少をしているのにも関わらず、ここ15年程の間は概ね人口横這いの傾向を示すなど、本市への移住や定住の底支えをまちづくりの側面から支援できたものと評価しております。

将来都市構造では、3つのゾーン形成と軸の形成、拠点の配置による、まとまりのあるまちづくり方針に基づき都市形成が引き続き進められたと評価しております。

土地利用全般としては保全中心ではございますが、道路・交通などを生かした軸が形成され賑わいの創出には寄与できたものと評価しています。

市政運営方針でございます。

3つの基本理念と6つのビジョンが掲げられています。

まちづくりに求められる主な課題でございます

こちらがお手元の資料の2ページです。ここまでにご説明いたしました、東金市の現状から、20年先を見据えた都市計画は、人口の急激な減少と少子高齢化に対応した持続可能なまちをつくるのが前提として見えてまいりました。この前提のもと、これらからまちづくりに求められる主な課題として9つ抽出いたしました。9つについて説明してまいります。

(1) 首都圏中央連絡自動車道の波及効果を受け止めた土地利用の展開と道路網形成でございます。2025年の圏央道全線開通、東金インター周辺部の土地利用展開、骨格道路形成、広域連携道路や災害時緊急輸送路がございます。

(2) 中心市街地の機能集積と魅力・活力の向上は、用途地域内の人口は着実に増加、店舗の減少、大型店の縮小、空き店舗や空き地の増加でございます。

(3) 地域の実情・時代に即した公共交通網の再編は、地域バス交通の本数減少、市民アンケート等では重要度は高いが満足度は低い、地域公共交通の需要とサービス水準のバランス改善でございます。

(4) 次代の技術革新に対応したまちづくりの展開は、ICT、IoTの導入、Society5.0の到来等による技術革新でございます。

(5) 観光・景観等の視点を含めた都市の魅力づくりと広域連携は、本市には誇れる物・施設が少ない、みのりの郷の集客力向上、観光資源が有効利用されていない、広域連携による観光資源の有効利用でございます。

(6) 誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりの展開は、集中豪雨・台風などの頻発・甚大化、地震などの自然災害、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入などでございます。

(7) 市民参加・協働及び大学などを活用したまちづくりは、自治活動の維持、まちづくりの担い手、まちづくり組織の不足、大学など若者のポテンシャルを活用でございます。

(8) 民間活力の導入と効率的・効果的な公共施設の整備促進は、インフラ・公共施設の維持管理費・改築更新費の増加、公共施設の利用需要の変化、民間活力の活用、

公共施設等総合管理計画との連携でございます。

(9) 農林業や里山・集落も含めた全市的視点からの都市環境形成は、田、畑、山林で市域面積の半分を超す、田園・里山は自然の豊かさ、環境の良さを示す要素のひとつでございます。

これらのまちづくりに求められる主な課題は、今後取りまとめていく理念と目標、施策の柱、全体構想に繋がるものでございます。下段のまちづくりの方向性でございますが、9つの課題に対し、理念と目標、施策の柱、全体構想を策定していく上での、一貫した、基本となる考え方であり、総合計画の基本理念の考え方を、都市計画マスタープランで力を入れたい方向性においても根底に据えるために定めたものでございます。

まちづくりの方向性でございます。この4つを土地利用の方向性として、市全体の調和を図りながら、限られた貴重な財産である土地の有効利用をしていきたいと考えております。

(1) ポテンシャルを活かしたまちづくりです。本市の強みである広域幹線道路ネットワークを活用した産業交流軸の形成により、賑わいと活力のあるまちづくりを行います。

(2) 市の中心部に都市機能の一定の集積を進めるまちづくりです。人口減少社会の中で持続可能な都市を築いていくため、市の中心部への都市機能の一定の集積により、都市としての機能強化を図り、全市的な都市サービスを継続して効率的に提供できるまちづくりを行います。

(3) 住み慣れた地域に住み続けられるまちづくりです。住み慣れた地域において、文化や風土、人のつながり、豊かな自然などを大切にしながら、生きがいと生業を持って暮らし続けられるよう、居住場所に関わらず生活サービスや集積された都市サービスを楽しむことができるまちづくりを行います。今後、人口減少により、コミュニティの弱体化、生活利便施設の減少、医療・福祉サービスなどの縮小が予想されます。このため、住み慣れた地域での暮らしを支えていくための生活サービス機能の確保とともに、安心して子育てできる環境の充実を図り、若い世代の居住を促進することにより地域活力を維持し、居住場所に関わらず生活サービスや集積された都市サービスを楽しむことができるまちづくりを行おうというものです。

(4) 公共交通の利便性を高めるまちづくりです。少子高齢化社会の中で地域と市街地を連結する公共交通網を再編することにより、交通の利便性を高めるまちづくりを行います。首都圏などとの交通アクセス性向上や広域連携を視野に入れ、鉄道輸送や高速バスなどの利便性を高めるまちづくりを行います。

以上の方向性を踏まえた、将来都市構造図のたたき台でございます。画面の上が八街市・成田市方面、下が九十九里方面、中央にJR東金線、白抜きの線が圏央道・千葉東金道路・九十九里有料道路、黒の線が国道等の主要な道路、画面の着色は上部から里山部、市街地、田園部をイメージしています。

画面左側では3つの産業拠点位置付けます。東金IC周辺では、既存の千葉東テクノグリーンパークは完売であり、新たな企業誘致を目指します。これにつきましては、数社から新たな立地先に対する問い合わせがございます。押堀IC周辺では、九十九里有料道路の利用者が、ただ通過するのではなく、本市に立ち寄っていただけるような、今までのような物流・製造だけではなく、多様な産業を活用した企業誘致を意識します。既存の小沼田・東金工業団地では、老朽化した施設に対する施設更新・拡充支援により既存企業の操業安定を図ります。これらにより、新たな企業誘致を図りつつ、既存の工業団地の更なる発展を促し、本市の産業を支えるとともに、九十九里町

や千葉市方面と連携する産業交流軸の形成を目指します。

画面右側では、みのりの郷東金や大学周辺を交流拠点、既存の工業団地を産業拠点として既存施設の強化、安定操業を目指し、これらを有効利用するとともに九十九里町から八街市、成田市方面と連携する産業交流軸の形成を目指します。この産業交流軸と圏央道を活用するための産業交流拠点を圏央道周辺に形成することにより、地域の活性化にも寄与すると考えています。

画面中央では、東金駅周辺を中心拠点、東金アリーナ周辺を交流拠点とし、左右の交流軸を連結するとともに国道126号沿線や東金アリーナ、中央消防署、新設予定のごみ処理施設などの有効利用を図りつつ、大網白里市から山武市方面と連携する産業交流軸の形成を目指します。中心市街地では、魅力と活力の向上を目指します。

説明は以上となります。

【会 長】 ありがとうございます。

以上、事務局の方より東金市第2次都市計画マスタープラン策定に向けまして、東金市の現状ならびにまちづくりに求められる主な課題として、今後の取りまとめに向けたまちづくりの方向性について、それぞれご説明をいただきました。

それでは、特に区分けをせずに、ご意見ご質問等がございましたらお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

【日 色 委 員】 (将来構造図のたたき台として)前回のマスタープランの図を引き継いでいるかと思いますが、福俵駅がもう少し左側ではないかと思いましたが。前回を見るともう少し左の方にずれているので、その方が誤解もないかと思えます。

【事 務 局】 先程もご説明しましたが、こちらはたたき台でありますので、今後の将来都市像に反映させていきます。

【相 京 委 員】 A3横長の資料は事前にいただきましたが、細かい資料も事前にいただければもう少しデータを読み込んできて内容のある議論ができるかなと思います。

もう一点、東金らしさや特徴を出していく必要があるということです。若い人によそから来てもらって住みやすいまちにするのか、お年寄りがいつまでも住みやすいまちとするのか、どちらかに決めるというのではないですが、検討が必要かと思えます。総花的なことをやっていると東金らしさがなく、どこのまちでも通用するものになってしまう。

人口減少率が少ないとご説明がありましたが疑問です。福祉や介護が整っていて県や国の施設があるということでお年寄りが山武郡周辺から入ってきているという危惧があります。東金では子育てが難しく若い世代が出てしまうということもあるかもしれません。もし作れるのであれば転入者と転出者の年代層のデータが必要だと思います。若い人なら児童館や子供のための施設の整備等を中心にしていくのか、お年寄りなら生涯学習的な活動ができる施設を中心にしていくのか。一箇所に色々な文化施設等を集中するのがいいのか、分散するほうがいいのか。その辺を総花的ではなく、まちとしてどういうところに重点を置いていきたいのかを話していただけたらと思います。

交通網が整備されてきている圏央道を利用してとなれば、車を運転する若い人や流通に関係する人もよそから呼んでくるとか、この地域でも住んで働くことができるということが中心になっているのかということ、一方では違う話もあるので、もう少し何かまちとしての考えを出していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

【事 務 局】 相京委員の方から言われました事については、言われた通りです。これから考えていく部分でございます。ただ一方で一番掲げています「ポテンシャルを活かした」というところでは、先生がおっしゃるように、若者に来てもらえるように市の工業団地

の活性化等は力を入れてかなければいけない。そうすることで人を呼び寄せることに繋がるのであろうと考えております。また、3番で言われています住み慣れたというところは、お年寄りでも住みやすく、また若者にも住んでもらえるようにまちづくりを進めていく。おっしゃるとおり総花的な表現を今はさせていただいています。この中で今後我々がこれから何をするのかということは、3月までに作ります全体構想の案の中でご説明していければと考えております。

【長島委員】 東金市の人口増加の年齢別の生産人口を見ると、15歳から65歳の間はそんなに減っていません。若い人はどんどん流出していますが、周りを見ても、新しく入ってくる人は30代の家族連れが多いです。地価が安い東金市に住居を設けて千葉や成田、佐倉等に通っています。先程工業団地の効率化とありましたが、新たな工業やIT産業が入ってくるのはなかなか難しいのではと思います。結局今の段階だと、50キロ圏内外の所に勤めている人が、安いからあるいは住みやすいから、ということであるのが非常に多いです。

うちの地区の年配の方ですが、静かで非常に住みやすい東金市を選んで民家を買って住んだということです。産業人口もいるし、老人も増えてきており、方向性が難しいとは思いますが、どのような方向にもっていったら少しでも住みやすいまちになるかを考えていただければと思います。

【事務局】 長島委員から人口構成の話がありましたが、若者が減っていること、生産人口も若干減少しています。次期の市の総合計画の中でも、先程基本理念の部分もお話させていただきましたが、本市のポテンシャルを活かして、という部分もございます。広域幹線道路を活用するという形では、小野山田の土地区画整理事業でテクノグリーンパークの造成をいち早く実施してきて、全ての操業が実施されています。これ以降の産業の誘導には難しさもあるのではというのが長島委員のご指摘かと思えます。引き続き市全体の税収の確保につながる企業誘致の底上げと、新たな企業に進出していただけるよう市全体の中で取り組んでいければという風に考えてございます。

【石田委員】 区画整理すると若い方々も増え、その地域の保育園はあふれて待機児童が増える。その世代が終わると高齢者が残り、成人された方は他の大学や地方に出て行く、というのが東金市の繰り返しです。今地方創生と国でもやっていますとおり、コンパクト化のまちづくりは高齢社会には非常にいいと思います。しかし、今なぜ国が地方創生で地方のほうに予算をつけて、どういうまちづくりをしていくかという点を見ると、小さい自治体と同じことだと思えます。東金の方向性で新しいことが何かできるでしょうか。交通利便性をはかって街を出て行くのであれば、寝泊りするだけのターミナルなのか、工業誘致であれば税収が上がるが雇用が増えるかというところでもないわけです。工場の跡地等を利活用したらどう利益が出てくるか、ということも考えていかなければならないと思えます。

少子化の中、夫婦共働きしていても自活ができるという時代です。工業誘致も然りですが、大手の一流企業の豊田や名古屋のように、何千人、何万人という方々が働いている状況を東金市が真似できるかと言うと決してそうではない。大手企業の誘致が出来れば非常に良いのかなと思えますが、今の現状では悪循環になっていると思えます。一番の問題が求名駅です。求名団地も非常に高額の土地で買っていただいていた時は非常に増えた状況でしたが、そのような繰り返しをどう止めていくかということです。説明されている中でちょっと矛盾しているところがありますので、東金市としてそれをどう改革していくか、ということになると思えます。

【事務局】 石田委員がおっしゃいますように、その部分をこれからどう考えていくかが本当に課題だと思っています。一方で、ポテンシャルを活かし稼ぐということにつなげ、その

稼いだお金を地元いかに還元していくか、還元の仕方についてはこれから色々な部署と検討しながら進めていき、計画に盛り込んでいければと考えております。具体的な意見が今言えなくて申し訳ないですが、その辺は重々承知した上で進めていっている最中でございます。

**【大沢委員】** 一点、質問ですが、目標年次は20年後という理解でよろしいでしょうか。2040年の東金の姿を描く計画であるという時間軸を、皆さんで一度共有ししっかりとつかんでおいたほうがよろしいかと思えます。

まず、先程皆様が言われているように、人口が横ばいというのは危ないと思っています。まわりの区画整理で稼いでいるだけで人口減少が遅く来るだけで、これは逆にとても危機感を持たなければいけないと思っています。実は、世帯が増えて人口が減るというのはとても危なくて、薄い低密度な都市が広がり続けているということです。税収は減っているが上下水管の維持管理は同じようにしなければいけない、これが多分コンパクトにしなければいけない理由だと思います。社会情勢の変化の中には、都市経営の観点も入れておかないと非常にきついのではないかと思います。将来的に上下水道や道路の維持管理をどうするのか。今迄の人口のピークで社会基盤は整備されていますが、人口は減ります。そうするとそれを支える人たちがいなくなり、それも一気に減るのではなく少しずつ減っていくので大変なのです。そういった社会情勢の変化を入れた方がいいのではないかと思います。

人口という表現表記ですが、これは昼間人口と夜間人口の2つを考えなければいけません。昼夜間人口比はどう変化してきているのか、やはり先程おっしゃいますように、多分吸い取られているような気がします。ベッドタウンかどうかは昼夜間人口比ですぐ分かります。それでいいのかどうか、新たな産業ができるかどうか、もう少し現状のデータ分析をした方がいいのではないかと思います。

昨今の災害リスクという観点が非常に強いのでハザードマップがどうなっているのか、土砂災害警戒区域やイエロー／レッドゾーンと、皆様が住まれている場所を重ね合わせてみて、土地利用は今後どうあるべきなのか、ということ考えた方がいいのではないかと思います。

公共交通の利便性を高めるまちづくりというところも、議論した方がいいと思います。公共交通を否定しているわけではありませんが、実際は車がほとんどです。さらに言うと、公共交通を作りましようと言っても、今は担い手がいません。都心部でも運転手がおらず、お客さんがいる路線も廃止しているところもあります。公共交通の利便性という一見聞こえは良いし、地元の方々には良いと思いますが、いくらここであつたつてお金を積んでも、担い手がいないのでは本末転倒になってしまいます。計画論と実際論で実はいま相当かけ離れている印象が出つつありますので、そこはもう一度考えた方がいいかと思えます。

公共交通に利便性があっても、目的地が魅力的でなければ外出しません。東京都市圏のパーソントリップ調査によりますと、これには東金も入っていますが、この10年間で10%外出率が落ちています。普通で考えれば東金も10%ぐらい平均で落ちているだろうと思います。これは多分細かくデータ分析が出来るので、東金だけの外出率がそのままであればアクティブな層が東金には多いということになり、逆に評価できます。2040年代の計画を作るのですから、もしかして自動運転が担い手になるかもしれませんし、その辺をもう少し多方面に考えた方がいいと思います。

**【事務局】** 大沢委員の方から、私共の現状分析の部分にもう少し手を入れながら、都市の実情をしっかりと掴んだ上で、というようなご指摘でございます。今一度、ご指摘の内容を含めて整理をしながら着手したいと思っています。

また、昼夜間人口比の関係ですが、記憶のレベルで申し訳ないですが、最新で約0.99ぐらいです。昼間人口について長島委員からご指摘いただきましたが、首都圏や千葉方面への流出も多いですが、この山武地域全体の中でいえば、東金市の企業や製造系の会社に山武、大網、九十九里からの入り込みがあります。学校があり通学者も入っているという部分も数字に反映されてきたのかなというところでございます。また、公共交通を核にしたという部分のまちづくりですが、大沢委員の方からお話がありましたとおり、20年後の時間軸という形でございますので、自動運転などSociety5.0の実証も始まっているという状況も含めた設定を考えた訳でございます。ご指摘のとおり、その公共交通だけに頼らないというところも十分視野に入れて、今一度再検証したいと考えてございます。

**【小川委員】** 都市計画マスタープランが20年先を見据えてというお話ですが、今の現状を考えまして、やはり20年という期間は長すぎる部門が沢山あるのではないかと思います。20年経ってしまうと、世の中どうなってしまうか分からないぐらいの変化がございます。まずは、今商工会議所では10年先を考えてやっております。10年先には必ず必要なものがそこに出てくるわけです。それを20年というスパンで考えてしまうと、おそらくその計画自体が見えなくなってしまうような部分があります。もう少しその計画の細部にわたっては、短いスパンで考えていただきたいと思います。私共は経済界ということで、10年先の東金近隣を考えております。その中でも、皆様方からお年寄りも住みやすい街の話がございましたが、「若い人たちに計画させるお年寄りに優しい街」、ということを基本にしています。例えば近隣のサンピアにしても、若い方がお見えになりません。サンピアの競合施設はネット販売です。地元の他の大手のスーパーが多少は競合になりますが、やはりネット販売にかなり取られているのが現状です。その中でどうしていくかという、お客さんにはお年寄りが多いですから、逆に「お年寄りに優しいショッピングモール」ということで打ち出していったらどうだということでお話ししています。例えば配達をするとか、やり方はいっぱいあると思います。それを考えさせる、また計画を立てさせて実行に移すのは40歳、50歳の若い連中にやらせる。これが一番まちづくりの根幹のベストではないかと思っ、いまそれを模索しております。その10年後の経済、また、地方経済はかなりのデフレだと思っています。表はインフレに近いものということでもはやされていますけども、我々地方の中小企業は間違いなくデフレです。だからやはり今お話が出たように、お金も使いません。ですから根本をもう一度考え直して、10年先に何が出来るか、目指すものを作っていくなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【事務局】** 小川委員が言われました、20年は長すぎるという意見についてご説明させていただきます。冒頭でお話ししましたように、都市計画マスタープランというものは、長期的な考え、指針というもので考えております。一方、今言われますように時代の変化も早いので、10年または5年でどんどん変わっていくことは私達も予想はしております。そういった中で、長期的に10年先30年先を見据えた将来像、また、5年後10年後という近い視点を捉えた計画的なもの、そういったものを盛り込みながら作っていきたくて考えております。また、若い人が老人のことを考えるというような意見もございましたけども、我々も大学生や高校生の意見も聞きながら計画づくりをさせていただいております。今いただいた意見も参考にしながら、これから具体的な姿が見えた時には、また色んな方の意見を聞こうと考えておりますので、参考とさせていただきます。

**【日色委員】** 誇れるものが少ないと書いてありますが、魅力的な場所はけっこうあるのではと思

ます。あいまいに八鶴湖という程度ではなく、もっと具体的に、建築としてこの蔵が  
いいとか、この生垣が美しいとか、この門は素晴らしいとか、そういう誇れる部分を  
実際に地図の上にプロットして位置づけていくようなことをしてもいいのではと思  
います。それは地域の方に協力していただかないとできない作業です。具体的に素晴  
らしい、だから補助金を出す、というのはすぐ出来ませんが、小川やきれいな橋とか、  
美しい林や農村景観も、そういう素晴らしい美しいものをリストアップして実際に把  
握していくことが重要だと思います。もう既にたたき台があればそれをさらに充実さ  
せていくことと、あいまいに丸で囲むのではなく、かなり具体的に探していくのが重要  
なので、もしやってないのであれば、ぜひやっていただきたいと思います。

【事務局】 地区の方との意見交換会や市民意見では、誇れるものはいっぱいあるじゃないか、そ  
れが逆に活かせていないのではないかというような捉え方であったと思います。表現  
が誤っていたのかと思います。日色委員がいま言われたような形で、我々それもポテ  
ンシャルだと思っております。そういったものを活かすまちづくりに繋げていければ  
と考えております。

【増田委員】 20年後の目標ということですが、2番目の「市の中心部に都市機能の一定の集積を  
進めるまちづくり」というところで、20年後と言いつつも、例えば公共建築の改修  
大規模改修等々もありますし、今からずっと繋がっていく20年後だと思います。3.  
11の大災害時に釜石市に度々入っていましたが、海からすぐの海拔の低いところ  
にある市の施設が全滅して大変なことになっていました。集積は非常に大事なことで  
すが、ある程度のバックアップはきちんと取れているのでしょうか。それが市の中や、  
かなり離れた自治体との連携など、その2つのバックアップは非常に大事なのでは  
と思っています。例えば、災害時や台風、10月の大雨の時にも、消防の方々が最前線  
で色々やって下さっていましたが、アリーナの位置が県道の一本道を通り平らな田ん  
ぼの中ですので、あの辺りが大変なことになったら、ということも考えられます。こ  
の20年後のマスタープランというところで、集積もいけれども、ちょっと反対に  
位置取るところ、バックアップも一緒に並行していただけたらと思いました。  
また、この4つの方向性の中で、半分くらいは民間の力がないと出来ないことだと思  
いますので、市の自力を上げていくということがまず大前提にあるということ意識  
しておかなければいけないと思います。先程の公共交通のお話もすごく納得のいくお  
話でしたので、そういったことも含めながら検討をこの場でも進めていけたらと思  
います。本当に失礼な言い方ですが、他の市町村でも当てはまるようなことに聞こえて  
しまうので、特徴のあるマスタープランになっていくようにと思っています。

【事務局】 まず一点目の一定の集積について、今用途で塗られている中にほぼほぼ集積はされて  
います。一方で老朽化がかなり進んでおりますので、老朽化した施設の統廃合、それ  
から再編に関してはこういった「一定の」というところを考えながら進めていきたく  
と考えております。

一方でバックアップという意味では、私共も頭から抜けていたのかなという感覚でお  
りますので、今後の検討に加えさせていただければと思います。

民活、市の力アップという意味ではなくどくなりますがポテンシャルを活かす中で市の  
税収の確保というものを力強くし、今後の市の発展のために活かせばなというところ  
で考えております。また、例えば、「これ大網白里市って書いても通用するよね」と  
ならないように、これから東金らしさを考えていきたいなと思っています。

【佐竹委員】 出身が岡山県で、工業地帯があり昼間の人口はたくさんありますが、夜になると人が  
いないという状況のまちです。しかし、街のなかで生き残りをかけて、さまざまな施  
策を取り組んでいます。東金市が人口の減少は他の地域に比べたら微減ではあるとい

う表現でした。確かに教育の街東金ですので、警察学校、農業大学校、城西国際大学があり、若い世代がたくさんいらっしゃいます。そういう意味では、微減という表現のままでとどまっていますがそこに危機感を持つというか、中身はどうだろうというところのお話もとても納得いくものでした。

今日はせっかく協和コンサルタンツ様がいらしていますが、このマスタープランがどこにあっても通用するようだというので、東金らしさをどのように捉えてここに提案していただいているのか、お伺いできればと思います。

【協和コン】 今年から現況の整理等を始めさせて頂いているところで、まだ理解が足りないところは多々あるかと思いますが、市民のみなさんのご意見や地域懇談会の意見等を見ると、現状にある程度満足されている声が多かったりする反面、やはり利便性はあるけれども突出した魅力にちょっと欠ける、といったご意見もあって、目立ってこれを改善すれば劇的に良くなるといったところがなかなか掴みにくいところです。平均して恵まれた環境にある街だとは思いますが、そこをどのように特徴をアピールしていけるかっていうのはまだまだ我々も模索しているところです。市の事務局の方達ともっと議論を深めてまいりたいと考えています。市民の方はわりと満足しているというご意見が目立っていました。批判的な意見が出がちなアンケートを目にするので、みなさん温和な市民の特性があるのかなという印象も受けました。

【佐竹委員】 懇談会に足を運んで下さる方というのはそれなりの意識を持った方が来て下さいます。色々な所を沢山見てきたけれど、この東金がいいと求めて来て下さり、住んでいる人達が気付かない東金の魅力を表現して下さる方が懇談会に参加されています。若者、住み慣れた方々、新たにこの地を求めて下さった方々、多種多様なお声をしっかり受け止める事が大事だと改めて思います。東金らしさがさらに出るようなマスタープランになっていけばと思っていますので、いろんな声の集積を、これからもご努力をお願いします。

【石田委員】 先程、防災のバックアップの件が出ましたが、今消防団員が減っていつてしまっている中で、消防団がどう取り組んでいくかということ、20年先のプランを考えていたときに安心安全のまちづくりといわれても、その辺を消防団がどう維持していくか、ということ。今東金市には消防団員が500人ぐらいしかいません。20年先にこの地方自治の小さな町の消防団活動で、防災のどんなことを応援していただけるのかということも、バックアップ体制から考えて取り組んでいかなければいけない時期が来ています。消防団活動を撤退したいという小さな区が非常に出てきている状況なので、そこも鑑みて協議しておく必要があります。小さい頃から災害のない東金市であったのが、この間の災害もありましたので、その辺のところを考慮していただきたいと思います。

【事務局】 石田委員からまちづくりにおける安全安心、特に消防の部分についてお話をいただきました。私ども市の中では消防防災課が所管する仕事ではございますが、まちづくりにあたって、都市の構造的に防災に強いまちの作り方という視点も当然必要です。いま現在、消防団員が減少しているという中で、政策的には城西国際大学の学生さんにも入っていただくという新たな取り組み等、今後そういった人的な確保に向けた動きもして参ります。私共土地利用施設関係を所管する課でございますので、防災に強い街という視点についても、先程大沢委員からも地図と重ねてどこにどういうふうな人を住ませるべきかというご指摘もございましたが、そういった観点から総合的に引き続き検討を深めさせていただくような形で、またお話ができるようにしたいと思います。

【石田委員】 城西国際大学の新しい消防団ができるといいですが、何をやっていいか分からない

方々が携わっていますので、あまりそのあたりには力を入れない方がいいと思います。防災への協力をお願いするならいいですが、消防団活動として見えるものがありません。確かに城西国際大学は一生懸命やってくれるかもしれませんが、どこまで重責のものを担っていただくかということを考えれば、大学にお願いしているから大丈夫だという考えではとても許されるものではないと思います。火災に携わることは出来なはずです。そういう見た目だけで判断されるようなことを、市民の方に、いま城西国際大学にお願いしているから大丈夫と言われるとおかしなところがあります。ただ、統一が出来て、災害のときに応援してもらおう形ならいいと思いますが、その辺の答弁は控えられたほうがいいと思います。

【事務局】 私共の認識不足というところもございましたので、今後の発言の中でそのありかたをよく考えていきます。

【佐竹委員】 今石田委員から言っていた城西国際大学の学生消防団の発足は、私が企画提案させていただいておりました。大事な生徒さんの命を預かっている大学として、現場に行くような消防団として訓練を受けて結成されているものではなく、地域社会に貢献するという役割です。防災の意識啓蒙が学生消防団の役割ですので、そのあたりこのまちづくりの中で担当課職員としてきちんと学生消防団の内容を把握しておいていただきたいなと実感します。あくまでも防災の意識を高めていく啓発のところで働いて頂く消防団員だと思いますので、よろしくをお願いします。

【長島委員】 20年後、一番の心配は東金市のこの豊かな水田を誰が管理するのかということです。うちの区でも今は3、4人でやっていますが、多分20年後は誰もいなくなってしまうと思います。荒れ果てた原野に戻ってもいいのかもしれませんが、普通、他の県ですと組織を作ったりして、ある程度管理出来るところは管理するという方向です。この近所では個人でやっている方が多いので、個人の方が亡くなればそれはそのまま消滅してしまいます。後継者を見ても、今やってらっしゃる若い方もいますけどその人の息子さんなどもいませんし、20年といわず10年後はどうなのかなと思います。これは農業ですが他の分野でも同じかと思います。今からそういう方向に持っていかないと20年後はどうなってしまうのでしょうかという思いです。農協のような組織と相談するのか、あるいは民間の方から管理会社のようなものが入ってくるとか、そういうのも含めてやらないと、土地管理というのは難しいのではないかと思います。

【事務局】 先程、現況と課題という整理の中で、田畑が東金市全地域の4割を占めているということをご説明させていただきました。そんな中で我々としても農業、水田は、重要な課題であるということは認識してございます。私どもは相反する都市マス、都市計画を司る部署でございますので、じゃあ農をどうするというはなかなか申しあげにくいのですが、東金市域全体を見て都市計画マスタープランを作っておりますので、農業部門である農政課の方と十分協議を進めながら作っていきたいと考えております。

【石田委員】 農業は今企業化で会社経営の体制をとっておりますが、減っている状況です。東金市全体を見ますと、西中の方が区画整理されてすぐ企業が参入できる状態になってきています。政府の方からの補助金はもうじき切られてしまうかもしれませんが、東金市の今の現状である300坪や1,000㎡ぐらいの田んぼでは、基盤整備をしないと企業は参入してきません。基盤整備にあたって、東金市では虫食い状態な状況が広がってきています。基盤整備をして五反歩、一町歩の田んぼを作るにあたって、集落の周りの排水整備事業から係っていかないと、なかなか残っていけないのではと思います。ただ利点から考えれば作田川や真亀川という川を控えていますので、それを再活用して基盤整備を行っていけば、二毛作や基幹産業で野菜の栽培もできるだろう

し、そういった方向に東金市が持っていけるかということです。そうすれば、まだまだ勝ち残っていける素晴らしい物も作れるのかなと思っています。

【市長】委員の皆様から、多様でかつ貴重な意見をいただきましたので、そのご意見を踏まえまして、今後の都市計画マスタープランの策定に活かしていきたいと思っております。具体的なお意見としては、相京委員から、総花的ではないか、もうちょっと重点的な方向を出したらいいのではないかと。長島委員の方からは、若い人は減少しているし、40%を占める農地の維持管理は今後どうするべきか、というお話もございました。大沢委員からは、昼夜間の人口、もうちょっとデータ分析すべきではないかということもありましたし、石田委員の方からは、人口の増減をどのように捉えているのか、そして将来の防災のあり方をどのように考えているのか、ということでもございました。大沢委員の方からは、公共交通の分析をもうちょっとすべきではないかと、それにつきましては、バス路線の再編成をやった人間としては、痛く感じるところでございます。日色委員の方からは、誇れるものが少ないのではなく、現状の現実のものをもう少し活かすべきではないかと。増田委員からは、中心部の主要機能の集積のありかたを考えるべきではないか、というような意見がございました。

しかしながら、東金市としては都市計画マスタープランを作っておりますけれども、この20年間、本当の都市の政策を行ってきたのか、というのは非常に疑問でございます。特に現在の状況を考えますと、先程から人口減少が非常に問題化されておりました。人口が減れば市税という歳入が減ります。歳入が減れば、都市経営、地方自治体の経営が非常に厳しくなります。そのようなことを踏まえれば、ここでやはり何かしらの新しいまちづくり都市づくりをやっていかなければ、地方自治体は持たないと思っております。

今日、県の委員様からはご意見は出ませんでしたでしたが、私の方では、8月9日には県土整備部に伺いまして、部長と各道路関係の課長に、道路のあり方等、色々とお話をしてきました。8月19日の千葉県との意見交換会では、東金市のポテンシャルを活かしたまちづくりを行っていききたいということを千葉県知事に直接申し上げるとともに、商工労働部長からは、東金市と千葉県で情報共有を図りながら連携して進めていきたいという話もいただいたところでございます。

こういった話を踏まえまして、東金市だけではなかなか今後のまちづくり都市づくりも厳しいところもございますので、千葉県さんにまたご協力をお願いしたいということをお場をお借りしてお願いしたいところでございます。よろしく願い申し上げます。

【会長】現在、城西国際大学には47都道府県から学生が来ています。それぞれが自分の出身地にこの地で生活している姿や様子をフィードバックしておりますし、私も土日を使って全国11か所の保護者の方たちの集まりに行き、学生生活について話しております。それぞれの説明会でも、東金のこういうところでこういう生活を送りますというようなこともお話して参りました。お話しながら思うのは、やはりこれから見据えた東金らしさを、新しい言い方や表現でブラッシュアップするかたちで引き続き出させていけると、大学が存続していく上でも非常に大事なことでありと思っております。私は、東京23区内での大名の上屋敷の調査で周辺地である房総のことなどを色々調べた時に、千葉県房総の特色の一つである江戸時代の在り方というのは、世界的に見ても非常に特徴的な土地であり時代でもありました。魅力はいっぱいあって、それをどう出すか、どういうストーリーに乗せていくか。例えば御成街道でいえば、道路としてはみんな使っていたとしても、将軍の移動に作った道路として使い始めと使い終わりが分かっている道路というのは、日本でここしかありません。伝え方が工夫さ

れることで、人が集まり魅力に感じるが増幅していくのだと思っております。もちろんこういう文化要素だけじゃなく、財政その他いろんなことを組み合わせた上でのマスタープランになっていくとは思いますが、ぜひ東金らしさがその時代に合わせた形で具現化されるようなものを目指していただければと、私なりの考えとして最後に申し述べさせていただきます。

色々と議論をいただきまして、本日の議題でございます「東金市第2次都市計画マスタープラン東金市の課題と方向性について」ということにつきまして、事務局におかれましては本日の意見等をいろいろ考慮ご検討いただきまして、計画策定をさらに推進していただければと思っております。委員の皆様におかれましては、本日の慎重な審議いろいろありがとうございました。以上をもちまして、本日事務局より諮られました議事につきまして、滞りなく終了とさせていただければと思っております。長時間にわたりましてスムーズな議事進行にご協力いただきお礼を申し上げまして、私の議長としての役目を降ろさせていただきます。ありがとうございました。

**【事務局】** 倉林会長をはじめ、委員の皆様には、慎重審議ありがとうございました。本日の議事録でございますが、議事録署名人に御署名をいただいた後、委員の皆様はその写しを送付させていただきますので、よろしくをお願いします。

## 6. その他

**【事務局】** その他といたしまして、委員の皆様から何かありましたらお願いします。無いようでしたら事務局より次回の都市計画審議会の開催予定についてご案内をさせていただきます。東金市第2次都市計画マスタープランにつきましては、今年度末の3月に全体構想（素案）の策定を目指しております。委員の皆様には、大変ご多忙の中恐縮ですが、次回の都市計画審議会については、現在3月30日（月）を予定させていただいております。ご案内は別途させていただきますが、よろしくお願いたします。それではこれにて本日の都市計画審議会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

以上をもって、午前11時40分に閉会となる。